

必要とした時」だけ「借り」が返されると言う点で、Investment Model とは異なる。

### Altruistic Model

子供の側の愛他精神や、その他の互報性とは異なる動機によって介護が行われる。生育過程でそれほど親からの投資がされなかったにもかかわらず、子供が老親にサポートを提供する場合。

(Reciprocity in Parent-Child Relations Over the Adult Life Course. Silverstein, M., et al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002, Vol.57B, No.1, S3-S13.では以上のモデルを実証的に検討し、いずれもそれなりに支持されたとしている。どのモデルにあてはまる親子関係であるかによって、提供される介護のパターンが異なる。)

上記のモデルの基になっている3種類の交換理論(exchange theory)

### Microeconomic exchange theory

個人は、コストを最小におさえつつ自身への利益が最大になるように行動する(rational choice)(Becker, 1974)という前提を介護に応用。子供は遺産を相続することに動機づけられて老親にサポートを提供する(Cox, 1987; Heretta et al., 1997)

Strategic bequest(戦略的遺産相続)(Bernheim, et al, 1985):必要なサポートが間違い無くえられるよ

うに、あるいは子供との交渉の手段として、自分が死ぬまで財産を譲らない。)

\*\*\*\*\*本研究は in vivo の transfer に焦点\*\*\*\*\*

The rotten child and demonstration effect(Becker, 1874)

Rotten child:根性の悪い子供が、遺産相続を目当てに、表面的な愛他精神で老親をサポートする。

Demonstration effect: 自分が老親の世話をしているところを自分の子供に見せて、将来自分が子供のサポートを得られるようにする。(Cox & Stark, 1992)

### Social Exchange Theory

以下の視点の組み合わせ

- 老親とサポートを提供する子供の関係そのもの

- 介護（老親へのサポート）に付与される価値とその社会的文脈
- 老親の依存について、どこまで許容できるか（限界点）
- 何をつ受け取ることを、互酬的交換関係の一部として期待するか。

世代間の互酬的関係の維持は、その集団(家族)の安定性を生み出すための一種の接着剂的役割を果たす。そのような相互依存は、団結力を高める。(Emerson, 1962)

互酬の素材になるおは物品だけでなく、承認、勇気付け、その他の情緒的サポートも含まれる。

### A General Model of Exchange

経済学的交換理論と社会学的交換理論の折衷

- a) 子供は、人生の初期に親から受けたものを返すべきだと思っている
- b) 子供が老親に返すものは、かつて親から受けたものに比例する（相当する）  
（しかし、どのような状況でこどもから親への「精算」が行われるかは検討されていないので insurance model と investment model の比較が必要)

経済学者は、子供への親からの投資を、老後の経済力低下時のリスク回避。年金に代わるものと解釈。

「長期の介護保険を買うようなもの」(Pauly,1990)

「Support bank」(Antonucci,1990)：その瞬間だけを見れば老親と子供の授受の関係はアンバランス

かもしれないが、長期的にはつじつまが合っている。

Life-course perspective (Bengtson, et al, 1994)

相互依存性が互いを結び付けている。人生とは「生のつながり」が形成・継続される過程。資源を構築し、老後の安寧を得るためには、そういった長期的な関係が重要。

### Altruism and other theories (nonreciprocal motivations)

サポートを必要とする対象に無条件にケアが提供される(Stark,1995; Stark & Falk,1998)

Altruistic theory の妥当性について先行研究は矛盾した報告。

過去の investment を構成する 3 つの概念 (Bengston & Roberts, 1991; Mangen, et al. 1988; Roberts & Bengston, 1990)

1) Emotional investment: affectual solidarity

2) Time investment: associational solidarity

子供と多くの時間を過ごし、活動を共有した。

3) Financial investment: functional solidarity

(Reciprocity in Parent-Child Relations Over the Adult Life Course. Silverstein, M., et al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002, Vol.57B, No.1, S3-S13.)

#### 介護関係に影響する要因

- a caregiver's sense of role captivity and burden,
- anxiety, frustration, and time costs,
- depression,
- health,
- tension &
- the care recipient's well-being.

介護関係は、どちらかの側の要因によって規定されるのではなく、介護者と要介護者の意見や見解が基本的なところで一致しているかどうかに影響される (一致していると、関係は良好)。…tautology?

(Caregiving as a Dyadic Process: Perspectives From Caregiver and Receiver

Lyons, Karen. S., et.al. J. of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES 2002, Vol.57B, No.3, P195-P204)

#### 介護関係の質を構成する要素

- cohesion,
- satisfaction and tension, &
- dyadic conflict.

先行研究では、介護者と要介護者の見解の一致・不一致については矛盾する報

告。

要介護者の健康状態については、介護者はより深刻に報告する傾向。

(Caregiving as a Dyadic Process: Perspectives From Caregiver and Receiver

Lyons, Karen. S., et.al. J. of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES  
2002, Vol.57B, No.3, P195-P204)

#### Dyadic process の検討に使われた指標

以下のすべての組み合わせについて相関係数を算出

介護者への質問項目	主介護者への質問項目
要介護者の ADL	要介護者の ADL
介護の困難度	介護の困難度
介護関係	介護関係の評価
抑うつ程度	抑うつ程度
健康問題（介護者の）	健康問題（主介護者の）
介護による行動上の制限	

#### 介護の困難度(12項目)

「\_\_\_\_\_さんをお世話するうえで、家族の協力を得ることはどのくらい難しいですか」(3段階評価)等の尋ね方。家族間の葛藤、介護費用のための負担感、介護のための作業量が多すぎる、適切な地域資源を見つけることの難しさの4領域をカバー。

#### 介護関係（介護者に対して）

8項目を示して、それぞれにどのくらい同意するか（「非常にそう思う」「まあ、そう思う」「あまり、もしくはまったくそうは思わない」で回答）。

「介護者は私を思うとおりにあやつろうとしている」

「\_\_\_\_\_さんとの関係は私をゆううつにさせる」等。

### 介護関係（要介護者に対して）

8項目について「いつも」「時々」「ほとんど、まったく」

「主介護者はあなたをはずかしめるようなことを言ったりしたりしますか」

「主介護者はあなたと居ることを楽しんでいると思いますか」

(Caregiving as a Dyadic Process: Perspectives From Caregiver and Receiver

Lyons, Karen. S., et.al. J. of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES  
2002, Vol.57B, No.3, P195-P204)

### Research Questions

- 1) 介護者と主介護者の well-being はどのように関連しているのか
- 2) 公的サービスの利用は、要介護者の健康状態の認識に関する不一致を増大させるのか
- 3) 介護関係が悪化すると、介護に関わる認識や判断の不一致も増大するのか

(Caregiving as a Dyadic Process: Perspectives From Caregiver and Receiver

Lyons, Karen. S., et.al. J. of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES  
2002, Vol.57B, No.3, P195-P204)

## 5. 日本的家族介護の構造的特徴を把握する視点

### 1)LIVING ARRANGEMENT

#### Living Arrangement の把握・分類項目

ひとり暮らし、配偶者とのみ同居、既婚子との同居、未婚子との同居  
高齢者の婚姻状況に規定される

(Transitions in Living Arrangements Among Elders in Japan: Dose Health Make a Difference?

Brown, J.W.,et.al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES  
2002,Vol.57B,No.4,S209-S220.)

要介護者と世帯主との関係：本人、配偶者、親、義理の親、同胞、その他の親族、血縁関係に無い同居家族の構造：配偶者のみ、18歳以上の子供、0-17歳の子供、他の18歳以上の大人、18-64歳の大人、65歳以上の高齢者。

(Living Arrangements of Older Adults in the Developing World: An Analysis of Demographic and Health Survey Household Survey. Bongaarts, J. & Zimmer, Z. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002. Vol.57B, No.3, S145-S157)

#### Living Arrangement の変化に関わる要因

- 要介護者の functional status(ADL,IADL)
- 要介護者の主観的健康
- physical health
- mental health(認知障害、精神障害)
- urbanity

(Transitions in Living Arrangements Among Elders in Japan: Does Health Make a Difference?

Brown, J.W.,et.al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES 2002,Vol.57B,No.3,S209-S220.)

老人ホームへの入所に関連する要因

- 高齢者自身の入所意思
- 介護期間（短い非常に長い）
- 介護に意義を見出せない（lack of perceived rewards）
- 介護者の健康状態
- 介護役割をめぐる葛藤（「関連資料」の文献参照）
- 高齢者の健康状態（24時間の見守りを必要とする、ADLの自立度が低い）
- 他の家族メンバーのニーズと介護が両立しない

(Nursing Home Placement Decisions and Post-Placement Experiences of African-American and

European-American Caregivers. Funk, S.V & Picot, S.F. J. of Gerontological Nursing. December, 1995)

- 都市化の程度

(The Effect of Older People's Economic Resources on Care Home Entry Under the United Kingdom's Long-Term Care Financing System. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002. Vol.57B, No.5, S285-S293).

2) 公的サービスの使い方

サービスの利用量

利用するサービスの種類

使いはじめるタイミング (家族で負担しきれなくなった時点で使用 vs. 始めから)

6. 日本の家族介護の価値・規範的特徴を把握する視点

1) 家族への期待・規範

- the expected reciprocity between adult children and their elderly parents

- preference of intergenerational living arrangement

- the ideal of living with a married son and receiving affection and care from the daughter-in-law

(Transitions in Living Arrangements Among Elders in Japan: Does Health Make a Difference?

Brown, J.W., et.al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES 2002, Vol.57B, No.5, S209-S220.)

- 家族・親族への信頼感

「高齢者の介護は家族で行うのが一番良い」という通念。

- ただし下記の論文は代替仮説(インフォーマルケアと公的サービスが代替的關係にある)を否定: Hydra Revisited: Substituting Formal for Self and Informal In-Home Care Among Older

Adults With Disabilities. Penning, M.J. The Gerontologist, 2002, Vol.42, No.1,4-16.

下記の論文はインフォーマルケアとフォーマルサポートと church support が正相関にあることを実証: Systems of Social Support in Families Who Care for Dependent African American Elders.

Williams, S.W., et al. 2002, The Gerontologist, Vol.42, No.2, 224-236.

<参考>公的サービス利用の規定要因は、ニーズ。メデイケイドや地域特性も関連。Borrayo, E.A.,et al. Utilization Across the Coninuum of Long-Term Care Services. TheGerontologist, 2002,Vol.42, No.5,603-612.)

- 家族が頼りになる。

(Historical and Contextual Correlates of Parallel Services for Elders in African American Communities. McAuley, W.J. The Gerontologist. Vol.38, No.4, 445-455.)

- 老親扶養義務感尺度

老親扶養は「経済的安定のための援助」「情緒的満足のための援助」「保健のための身体的介護」の3要素から構成され、どの援助が子供の義務だと考えられているかを測定する。

(大田&甲斐 老親扶養義務感尺度の開発 社会福祉学 第42巻第2号, 2002)

- 扶養規範の構造 (家意識との関係において。20項目の尺度)

(坂本 扶養規範の構造分析: 高齢者扶養意識の現在 家族社会学 No.2/1990. 57-69)

## 2) 公的サービスに対する構え

- 公的サービスでは十分なケアは受けられない

(Historical and Contextual Correlates of Parallel Services for Elders in African American Communities. McAuley, W.J. The Gerontologist. Vol.38, No.4, 445-455.)



- Medicare でカバーされるサービスについては経済階層差は見られないが、extra のサービス((歯科治療で代表させる) では差が認められる。

(Gender and Ethnic/Racial Disparities in Health Care Utilization Among Older Adults. Dunlop, D.D., et. al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002, Vol.57B, No.3, S221- S223.)

- 公的サービスの利用によって、主介護者の負担や strain、主介護者の健康問題や家族間の葛藤等が軽減されるかどうかについては、先行研究で矛盾した報告。

- 公的サービスの利用が介護者と要介護者の関係を悪化させるという報告もある。

(Caregiving as a Dyadic Process: Perspectives From Caregiver and Receiver. Lyons, Karen. S., et.al. J. of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES. 2002, Vol.57B, No.3, P195-P204)

- 公的在宅サービスと施設入所では規定要因が異なるので、在宅サービス利用と入所サービスは段階的リニアな関係には必ずしも無い。

(Changes Predicting Long-Term Care Use Among the Oldest-Old. Finkayson, M. 2002. The Gerontologist, Vol.42, No.4, 443-453.)

### 3) インフォーマルケアに対する考え方

- 地域への信頼感 (助け合いは生活の一部)

(Historical and Contextual Correlates of Parallel Services for Elders in African American Communities. McAuley, W.J. The Gerontologist. Vol.38, No.4, 445-455.)

### 4) 高齢者に対する考え方

- 高齢者は長年地域に貢献して来た人

- 尊敬されている

- リーダーシップを期待されている

(Historical and Contextual Correlates of Parallel Services for Elders in

African American Communities. McAuley, W.J. The Gerontologist. Vol.38, No.4, 445-455.)

- 努力すれば independence は維持できる vs.年をとれば誰でも助けを必要とする (橋本)

5) 介護者の心理機制

- 介護負担の構造が文化によって異なる

(Financial strain, Social Relations, and Psychological Distress Among Older People: A Cross-Cultural Analysis. Ferrano, K. & Su, Y. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES 1999.Vol.54B, No.1, S3-S15)

- Pearlin & Schooler(1978)のコーピングに関する 21 項目

(Stress and Caring for Elderly Relatives: Interpretations and Coping Strategies in an American Indian and White Sample. Strong, C. The Gerontologist, Vol.24, No.3, 1984)

6) 意思決定の方法

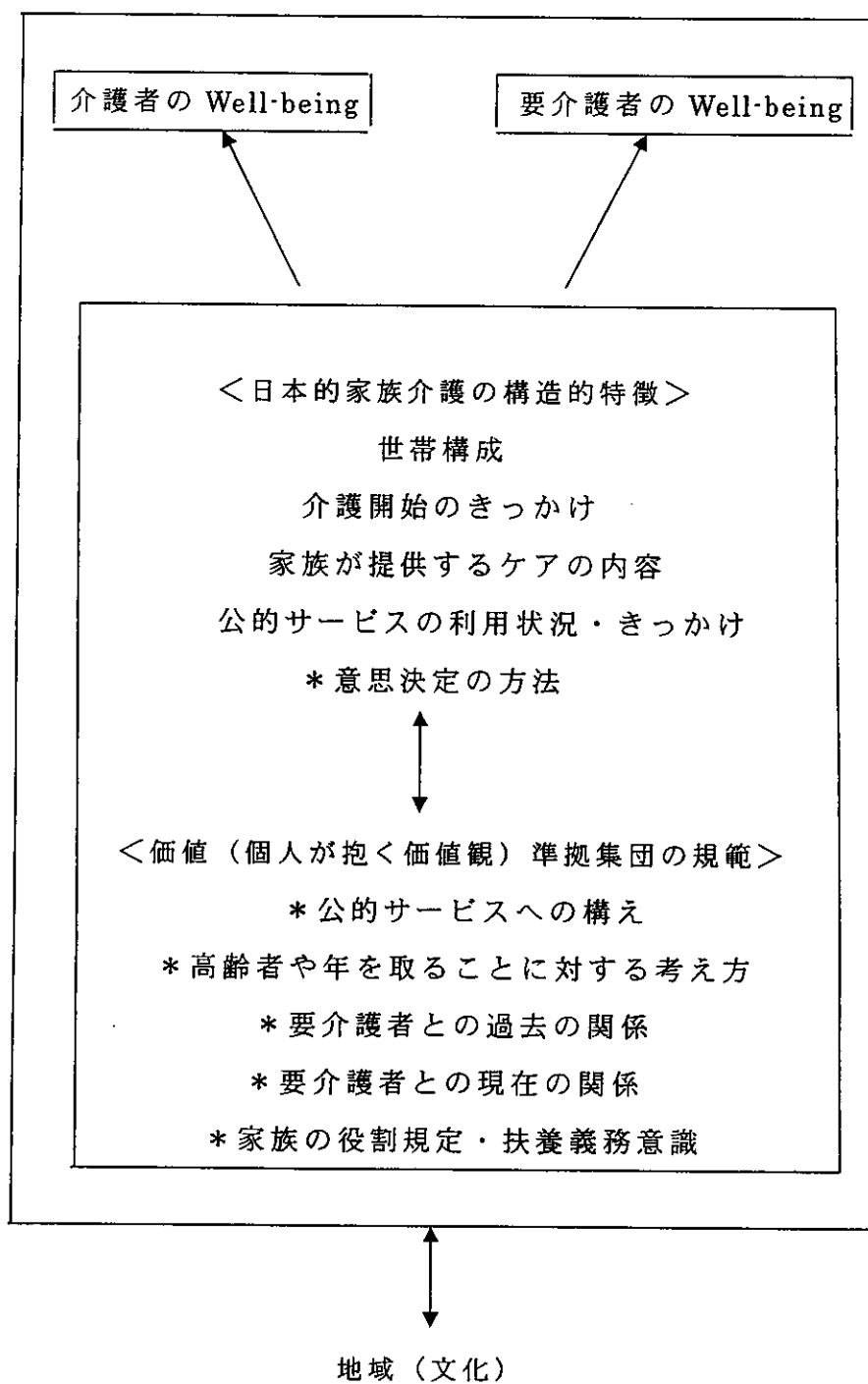
- 高齢者が意思決定プロセスに参加するか

- 高齢者が意思決定に中心的な役割を果たすか

- 医師の判断が影響力を持つか

(Nursing Home Placement Decisions and Post-Placement Experiences of African-American and European-American Caregivers. Funk, S.V & Picot, S.F. J. of Gerontological Nursing. December, 1995)

7. 日本的家族介護関係分析モデル



\* オリジナル項目

8. 日本的家族介護のあり方：項目案

<介護者>

ケアの内容

\_\_\_\_\_さんのために、以下の家事をどなたがされていますか。

	主にしている人	その他に 手伝っている 人（複数回答）	家事を本人以外 の人がするよう になったきっかけ
料理・洗濯・ _____さんの部屋の掃除			
金銭管理			
大工仕事・家内の修理			

<家事を担当している人の続柄コード>

1. 本人      2. 子供      3. 子供の配偶者      4. 孫  
5. 孫の配偶者      6. 配偶者      7. 兄弟姉妹      8. その他の親族  
9. 非親族

<本人以外がしている場合に>

これらの家事等について、本人以外の方がするようになったきっかけは何ですか。

あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 本人の健康状態の悪化（痴呆症状の始まりを含む）
2. 本人の息子夫婦の結婚
3. 本人の配偶者の死亡
4. 本人と介護者との同居
5. その他（具体的に記入： \_\_\_\_\_ )

提供するケアの内容

必要ない 一部手助けが必要 全面的に手助けが必要  
(見守りが必要な  
場合を含む)

---

ADL

老研式活動能力指標 + IADL4 項目

痴呆に伴う問題行動 (介護者のみに尋ねる)

誰が主に手助けをしてくれたか。 その他に手助けをしてくれる人はいるか。

(追加)

意思決定過程

\_\_\_\_さんの介護に関わる決め事には、どなたが関わっていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

- |            |                            |                |
|------------|----------------------------|----------------|
| 1. 本人      | 2. 主介護者                    | 3. その他の介護を手伝う人 |
| 4. 主治医     | 5. 看護婦                     | 6. 保健婦         |
| 7. 訪問看護婦   | 8. ヘルパーやデイケアスタッフなどのサービス提供者 |                |
| 9. サービス事業者 | 10. その他 (具体的に記入: _____)    |                |

どのように決めていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 本人の意向を尊重する
2. 主介護者の意向が尊重される
3. 本人や主介護者以外の人の意向が尊重される。 → それは誰? (番号記入)
4. 皆で話しあって決める
5. 主治医やサービス事業者の意見に従う
6. ケアマネージャーの意見に従う
7. その他 (具体的に記入: \_\_\_\_\_)

\_\_\_\_さんの介護に関わる決め事に、あなたの意向はどのぐらい反映されている と思いますか。

1. 大いに反映されている
2. まあ反映されている
3. あまり反映されていない
4. まったく反映されていない
5. (主介護者の側に) 意見は無い
6. 主介護者以外に意志決定に関わる人はいない

### 要介護者との過去の関係

\_\_\_\_\_さんがお元気だった頃、あなたとはどのようなおつきあいをされていましたか。

1. \_\_\_\_\_さんとよく話をした
2. \_\_\_\_\_さんと正月や祭日、誕生日などの特別な日を一緒に祝ったり過ごしたりした。
3. \_\_\_\_\_さんを頼りにしていた。
4. \_\_\_\_\_さんを尊敬していた。
5. \_\_\_\_\_さんを親っていた。
6. 経済的なことで援助をしてもらった。

### 歯科治療

\_\_\_\_\_さんは歯の治療や歯の手入れ（入れ歯の調整を含む）をしていますか。

1. \_\_\_\_\_ している
2. \_\_\_\_\_ していない

### 家族との関係

\_\_\_\_\_さんのお世話をするうえで、家族の協力を得ることはどのくらい難しいですか。（4段階）

### 要介護者との現在の関係

\_\_\_\_\_さんとの関係はどのくらいうまく行っていると思いますか。

1. 非常にうまくいっている
2. まあうまくいっている
3. あまりうまくいっていない
4. まったくうまくいっていない

### 家族への期待

あなたのお気持ちでは、どちらの意見に近いですか。

#### A. 公的サービス

- 1) 身内ではどうしても手がまわらないなど、やむを得ない場合に限って公的サービスを利用する。
- 2) たとえ身内でできることであっても、公的サービスがしてくれることなら、積極的に利用する。

#### B. 加齢と依存

- 1) 年をとれば誰でも、他者の助けを必要とする。
- 2) 身内に迷惑をかけずに年をかけずに年をとっていくことは可能だと思う。

### 伝統的家族観

(「非常にそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」)

- 1) 高齢者の経済的援助をするのは、家族として当然のことだ。
- 2) 家族は高齢者に生活費などの経済的援助をする必要はない。
- 3) 高齢者の介護は、必ずしも家族が担う必要はない。
- 4) 家族は高齢者とともに過ごす時間を持つべきだ。
- 5) 高齢者のお世話を家族がすることで、子供達や若い世代への良いお手本を示すことができる。
- 6) 高齢者のお世話をすることは、恩返しにつながる。

### <要介護者>

#### ケアの内容

必要ない    一部手助けが必要    全面的に手助けが必要  
(見守りが必要な  
場合を含む)

---

### ADL

老研式活動能力指標 + IADL4 項目

痴呆に伴う問題行動 (介護者のみに尋ねる)

誰が主に手助けをしてくれたか。 その他に手助けをしてくれる人はいるか。

### 意思決定過程

介護に関わる決め事に、あなたの意向はどのぐらい反映されていると思いますか。

1. 大いに反映されている
2. まあ反映されている
3. あまり反映されていない
4. まったく反映されていない
5. 自分の意見は無い
6. 本人以外に意志決定に関わる人はいない

### 歯科治療

あなたは歯の治療や歯の手入れ (入れ歯の調整を含む) をしていますか。

1.            している
2.            していない

### 主介護者との関係

主介護者との関係はどのぐらいうまく行っていると思いますか。

1. 非常にうまくいっている
2. まあうまくいっている
3. あまりうまくいっていない
4. まったくうまくいっていない

主介護者はあなたのお世話をどのぐらい大変だと感じていらっしゃるでしょうか。

1. かなり大変だと感じているようだ
2. まあ大変だと感じているようだ
- 3.それほど大変ではないようだ
4. まったく大変ではないようだ

### 家族への期待

あなたのお気持ちでは、どちらの意見に近いですか。

#### A. 公的サービス

- 1) 身内ではどうしても手がまわらないなど、やむを得ない場合に限って公的サービスを利用する。
- 2) たとえ身内でもできることであっても、公的サービスがしてくれることなら、積極的に利用する。

#### B. 加齢と依存

- 1) 年をとれば誰でも、他者の助けを必要とする。
- 2) 身内に迷惑をかけずに年をかせずに年をとっていくことは可能だと思う。

### 伝統的家族観

(「非常にそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」)

- 1) 高齢者の経済的援助をするのは、家族として当然のことだ。
- 2) 家族は高齢者に生活費などの経済的援助をする必要はない。
- 3) 高齢者の介護は、必ずしも家族が担う必要はない。
- 4) 家族は高齢者とともに過ごす時間を持つべきだ。
- 5) 高齢者のお世話を家族がすることで、子供達や若い世代への良いお手本を示すことができる。
- 6) 高齢者のお世話をすることは、恩返しにつながる。



## 遺産

あなたは遺産(お金、家、土地等)を残したいですか？

1. はい
2. いいえ(残す遺産が「無い」を含む)

SQ1. 「はい」と答えた人に

誰に残したいとお考えですか(複数回答)。

1. 事業をついでくれた人に残す-----誰？
2. 介護をしてくれた人に残す-----誰？
3. 家をついでくれた人に残す-----誰？
4. 長男に残す
5. 子供たちに均等に分ける
6. その他( )

SQ2. あなたがそのような考えておられることについて、周囲の方に伝えましたか？

1. 親族に伝えた
2. 遺産を残したいと思っている相手にだけ伝えた
3. 弁護士等の代理人だけに伝えた
4. 遺言書に記した
5. 伝えていない

## 関連資料

### 1. 介護役割に関する葛藤

- Change in the Centrality of Women's Multiple Roles: Effects of Role Stress and Rewards.

Norton, T.R., et.al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002. Vol.57B, No.1, S52-S62.

- Balancing Parent Care With Other Roles: Interrole Conflict of Adult Daughter Caregivers.

Stephens, M.A.P., et al. J. of Gerontology: PSYCHOLOGICAL SCIENCES. 2001. Vol.56B, No.1, P24-P34.

### 2. インフォーマルケアの構造

インフォーマルケアの構造と、介護に関わったきっかけ

- Neighbors, Friends, and Other Nonkin Caregivers of Community-Living Dependent Elders.

Barker, J.C. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002. Vol.57B, No.3, S158-S167.

### 3. 施設入所後の介護者

- Nursing Home Placement Decisions and Post-Placement Experiences of African-American and European-American Caregivers. Funk, S.V & Picot, S.F. J. of Gerontological Nursing. December, 1995

- Patterns of Family Visiting with Institutionalized Elders: The Case of Dementia. Yamamoto-Mitani, N., et.al. J. of Gerontology: SOCIAL SCIENCES. 2002. Vol.57B, No.4, S234-S246.

## ストレス・プロセス・モデルを用いた

### 「家族介護の限界点」(Care Transition) に関する研究

本研究では、ストレス認知理論 (Lazarus & Folkman, 1984) に基づくストレス・プロセス・モデルを構築し、縦断的データにより「家族介護の限界点」を左右する要因を明らかにすることを目的としている。仮説的ストレス・プロセス・モデルの概要は図 1 および表 1 に示す通りである。

ここ 10 年ほどの間に、ストレス認知理論を背景とする実証研究は、日本においても散見されるようになったが (例えば、新名他, 1991; 中谷, 1992; 松岡, 1994; 和気他, 1994; 杉原他, 1998; 岡林他, 1999; 安部, 2001)、いずれも横断データを用い、特定の変数 (主に表 1 の Mediator もしくは Moderator 変数) に着目したものであり (表 2 参照)、包括的なモデルが構築されるには至っていない。そこで、本研究では、先行研究の成果を整理し、パネル・スタディと質的研究を併用することによって、より精緻なモデルを構築することを目標とする。

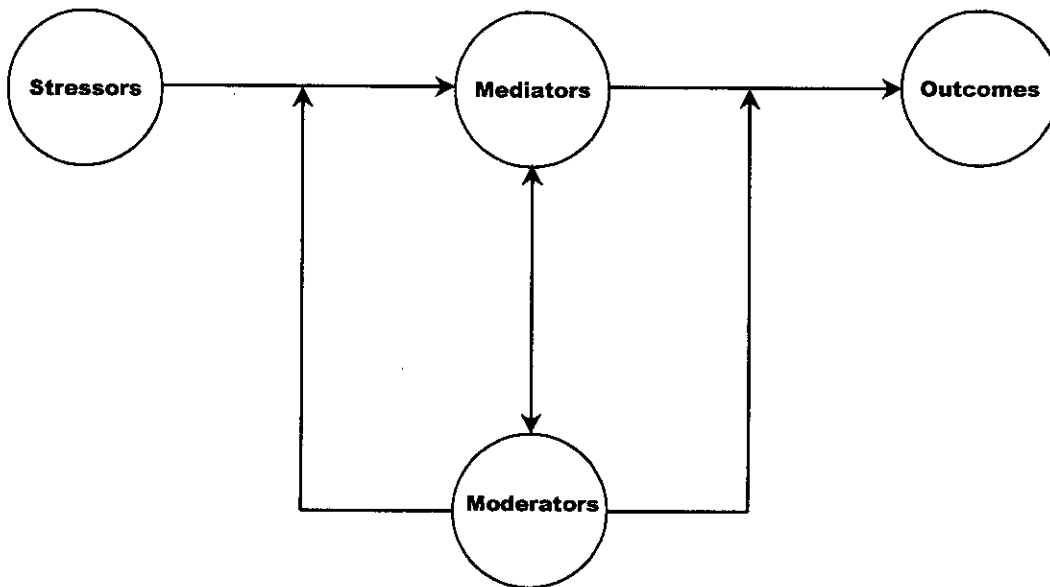


Fig. 1

以下、モデル構築にあたっていくつかの課題を列挙する。

- ① Mediator 変数として、介護負担感とは独立の次元を構成すると考えられる Reward/Gain の尺度の開発
- ② コーピングは Mediator 変数か? (構成概念の検討の必要性)
- ③ ソーシャル・サポート以外の moderator 変数の検討の必要性 (とりわけ、要介護高齢者-介護者の Dyad への着目)。
- ④ 介護される側の主観的評価への着目 (たとえば、Unmet Needs)。

**Table 1**

Components	Constructs	Variables
Stressors	Behavioral Comprtence Cognitive Function	ADL IADL Behavior Problems MMSE
Mediators	Reward/Gain Burden	PCRS_R ZBI Unmet Needs(care recipient)
Moderators	Coping Social support network	Coping Scale Instrumental/Emotional Support Scale Confidant/Companion (Dyadic Variables)
Outcomes	Distress/Well-being  Care Transitions	CES-D PGMS CFSI Institutionalization(care recipient)
control / background		

**Table 2** 先行研究で焦点とされた変数

	Mediators	moderators
新名他 (1991)		ソーシャル・サポート
中谷 (1992)	介護負担感	
松岡 (1994)		個人資源(介護者の健康、時間的余裕) 家族資源(人的・物的・経済的) 家族外資源(ソーシャル・サポート)
和気他 (1994)	コーピング	
杉原他 (1998)		介護期間 内的資源(経済状態、就労状況) 外的資源(ソーシャル・サポート)
岡林他 (1999)	コーピング	
安部他 (2001)	介護負担感	

## 文献

- 新名理恵他: 痴呆性老人の在宅介護者の負担感に対するソーシャル・サポートの緩衝効果. 老年精神医学, 2: 655-663 (1991).
- 中谷陽明: 在宅障害老人を介護する家族の“燃えつき”; “Maslach Burnout Inventory” 適用の試み. 社会老年学, 36: 15-26 (1992).
- 松岡英子: 在宅老人介護者のストレスに対する資源の緩衝効果. 家族社会学研究, 6: 81-94 (1994).
- 和気純子他: 在宅障害老人の家族介護者の対処(コーピング)に関する研究(2); 規定要因と効果モデルの検討: 社会福祉援助への示唆と課題. 社会老年学, 39: 23-34 (1994).
- 杉原陽子他: 在宅要介護老人の主介護者のストレスに対する介護期間の影響. 日本公衆衛生雑誌, 45: 320-335 (1998).
- 岡林秀樹他: 在宅障害高齢者の主介護者における対処方略の構造と燃えつきへの効果. 心理学研究, 69: 486-493 (1999).
- 安部幸志: 主観的介護ストレス評価尺度の作成とストレスャーおよびうつ気分との関連について. 老年社会科学, 23: 40-49(2001).